

GSI Creos

Produce the Future 次代を創る

株式会社GSIクレオス

証券コード 8101

第90期 中間株主通信

2019年4月1日から2019年9月30日まで

■ 存在理念

私たちの存在意義は、新たな価値を発見し、社会的な価値へと結晶させることにあります。

私たちは、次代の生活品質を追求するビジネス・プロデューサーとして、独自にして公益にかなう最高水準のサービスを創造し、GSIクレオスと価値を共創するすべての当事者の幸せを実現します。

■ 経営理念

社員とともに GSIクレオスにとって、人的資本こそが企業価値を創造する源泉であります。

私たちは、GSIクレオスを共に創るプロフェッショナル人材の開発に投資をおしまず、社員一人ひとりが、発揮した能力と意欲に応じて喜びと誇りを享受しながら、企業価値の創造に参画できる経営を実行します。

株主とともに GSIクレオスにとって、株主は持続的な成長と発展の柱石であります。

私たちは、安定的に企業価値を高め続けることが、株主への最大の貢献であると考え、企業価値の増大に資する事業活動に専心し、株主に対するオープンかつインタラクティブな経営を実行します。

取引先とともに GSIクレオスにとって、取引先は共に成長するパートナーであります。

私たちは、最良のパートナーを求めるとともに、自らも選ばれるための要件を満たし続けて、市場合理性にもとづく対等な関係を保つことで、常に学習し高め合う創造的な経営を実行します。

市場とともに GSIクレオスにとって、市場とは、価値観を共有する生活者であります。

私たちは、私たちの確信する価値観にもとづいて、世界中から最高のリソースを見出し、挑戦的にビジネスを展開し、生活者の期待を創り、期待に応える経営を実行します。

地球環境のために GSIクレオスにとって、地球環境の保全は、生活の場に対する信実であります。

私たちは、私たちの推進する事業活動の一環として環境保全に取り組むことで、より多くの人や組織とともに地球環境保全活動へ参加する経営を実行します。

会社組織のために GSIクレオスにとって、会社組織は、個の感性と叡智を結集し、最大限に高め合う器であります。

私たちは、個人の役割と成果責任を明確にして権限を委譲し、自律する強い組織をつくることで、市場に直結した判断と迅速な決定を可能にし、環境の変化にダイナミックに適應する経営を実行します。



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、第90期中間期（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の営業を終了いたしましたので、ここに営業の概況と決算をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

代表取締役社長

吉永直明

第90期中間期の業績

当中間期におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復を続けたものの、海外経済は、長引く米中貿易摩擦の影響や中国経済の減速などにより、低迷が続いております。

こうした中、当社グループは、2021年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画で掲げた、「海外売上高の拡大」や「収益性の向上」などの重点施策に取り組んでまいりましたが、上半期におきましては、天候不順や低調な海外市場の影響を受ける結果となりました。

当中間期の業績につきましては、売上高は、前年同期比12,246百万円、17.8%減収の56,642百万円となりました。売上総利益は、前年同期比449百万円、6.8%減益の6,197百万円、営業利益は、前年同期比383百万円、38.4%減益の614百万円、経常利益は、前年同期比461百万円、

44.3%減益の581百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比157百万円、21.4%減益の578百万円となりました。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益の通期予想につきましては、概ね計画通りに進捗しております。

第90期中間期業績

売上高	56,642百万円	前年同期比	△17.8%
営業利益	614百万円	前年同期比	△38.4%
経常利益	581百万円	前年同期比	△44.3%
親会社株主に帰属する中間純利益	578百万円	前年同期比	△21.4%

通期の見通し

下半期の経営環境につきましては、先行き不透明な状況が続くと思われませんが、中期経営計画で掲げる重点施策を着実に実行し、引き続き収益基盤と財務体質の強化を図ってまいります。

第90期通期見通し

売上高	123,000百万円
営業利益	1,700百万円
経常利益	1,700百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,200百万円

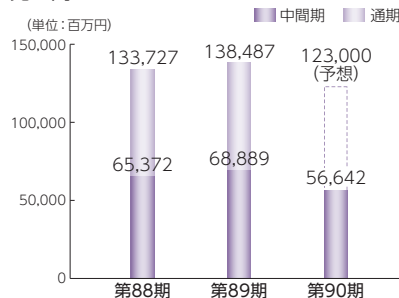
中期経営計画（2018-2020）の進捗

当期（計画2年目）におきましては、プラスチック再生事業に参入するなど、「環境関連事業」への取り組みを強化しております。また、「収益性の向上」を図るべく、出資（半導体関連事業他）や包括業務提携契約の締結（プラスチックパッケージ関連事業）による事業拡大にも注力しております。

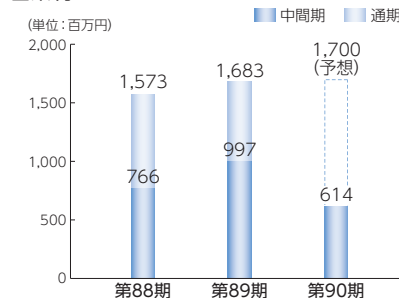
ナノテクノロジー事業につきましては、高性能表面処理・ナノテクト®がUAE・アブダビ国営石油企業（ADNOC）で採用され、取引を開始いたしました。

業績の推移（連結）

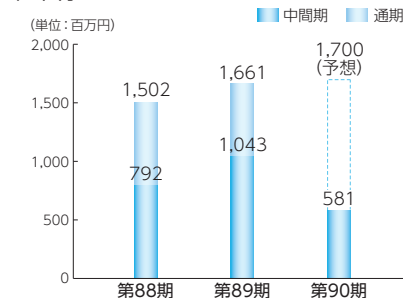
売上高



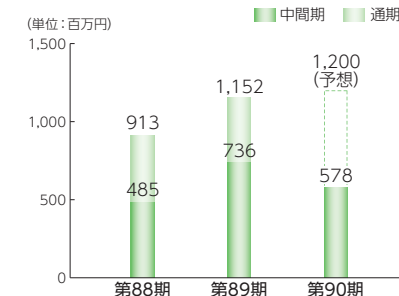
営業利益



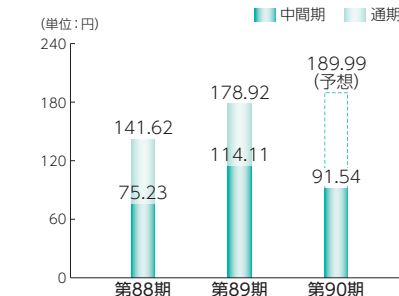
経常利益



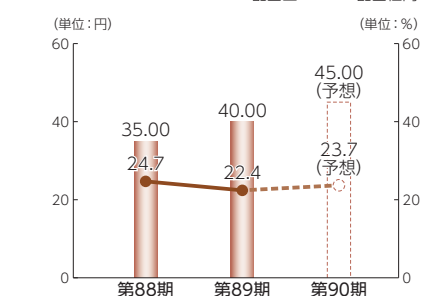
親会社株主に帰属する当期純利益



1株当たり当期純利益(注)



配当金/配当性向



(注)当社は、2017年10月1日付で株式併合（普通株式10株を1株に併合）を実施いたしました。1株当たり当期純利益につきましては、第88期の期首に株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

セグメント別概況

繊維事業

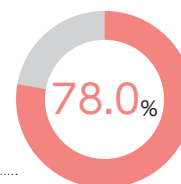


主要商品：

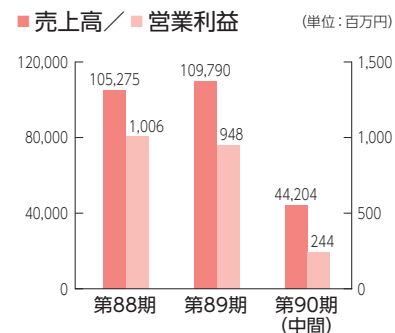
繊維原料、テキスタイル、
レッグ・インナー・
アウターウェア 他

売上高	44,204百万円	
	前年同期比	△18.1%
営業利益	244百万円	
	前年同期比	△60.3%

売上高構成比



- インナー用機能糸・生地の海外販売およびパンスト・タイツ用加工糸の取引が減少しました。
- 婦人ファンデーションの取引が前年並みに推移し、中国におけるインナー製品のOEM取引は増加しました。
- 欧米向けのアウター用生地取引は増加しましたが、アウター製品のOEM取引は低調に推移しました。



工業製品事業

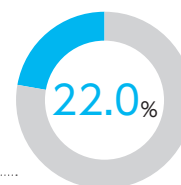


主要商品：

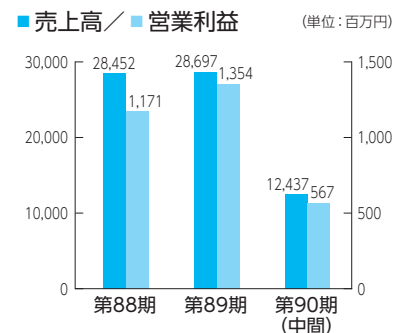
化学品、機械・材料、
ホビー・生活関連品 他

売上高	12,437百万円	
	前年同期比	△16.5%
営業利益	567百万円	
	前年同期比	△5.2%

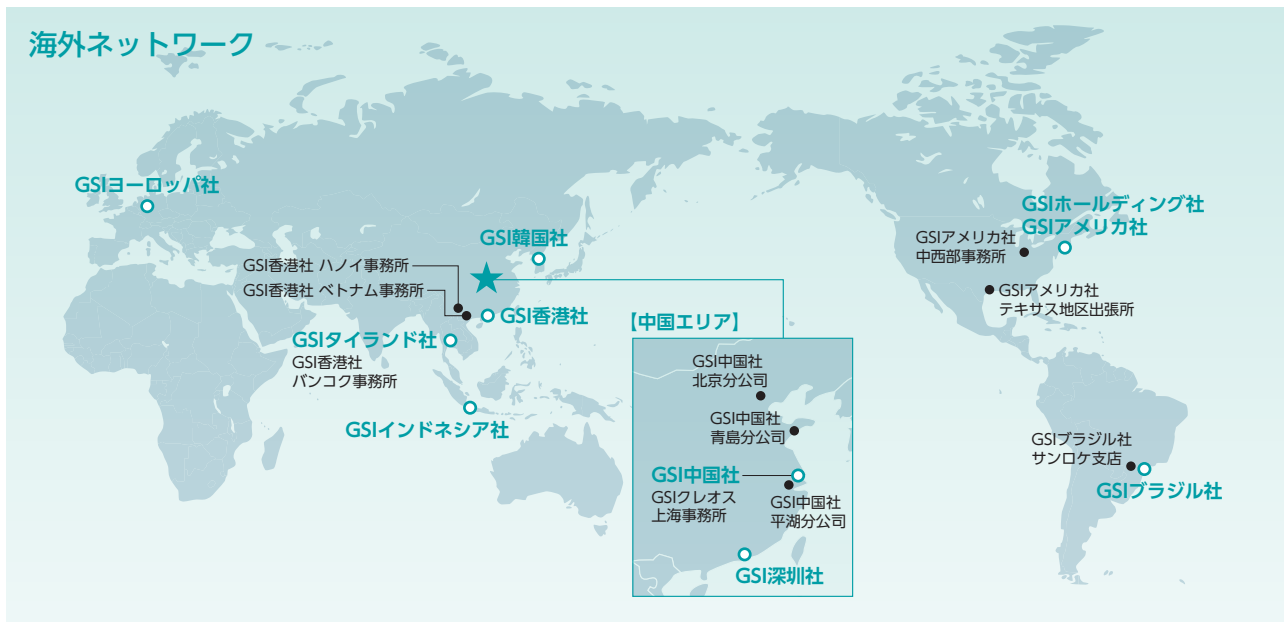
売上高構成比



- 塗料原料の輸取出引、米国向けの化学品の取引およびフィルム関連の取引が低調に推移しました。
- 「環境関連事業の拡大」に向けて、前期から開始した生分解性プラスチック関連および再生プラスチック関連の取引が好調に推移しました。
- 中国製半導体基板および機械装置の取引は減少しました。
- ホビー関連の取引が増加し、化粧品原料の取引は前年並みに推移しました。
- ナノテクノロジー事業は、カップ積層型カーボンナノチューブ「カルベール®」の特徴を活かし、複合材や塗料などの分野において事業化を進めています。

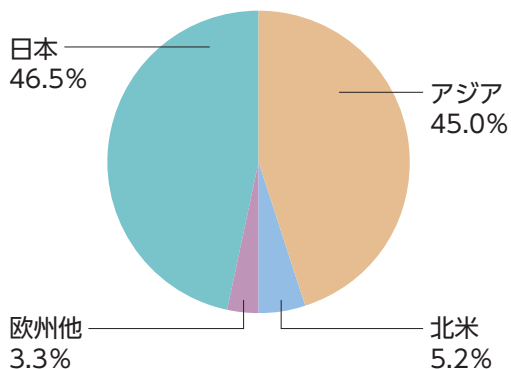


海外ネットワーク

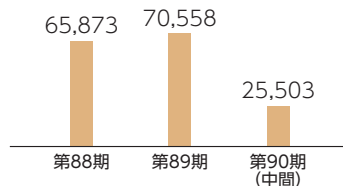


地域別売上高構成比

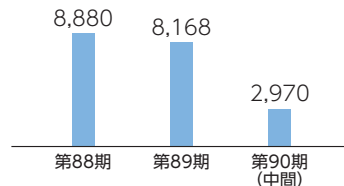
海外売上高比率 **53.5%**



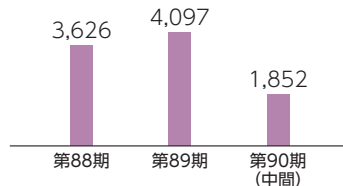
アジア (単位: 百万円)



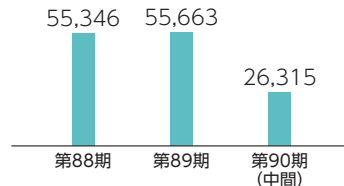
北米 (単位: 百万円)



欧州他 (単位: 百万円)



日本 (単位: 百万円)



■ ナノテクト®のUAE・アブダビ国営石油企業ADNOCでの採用について －高機能表面処理を施した金属部品を中東で拡販－

当社と株式会社竹中製作所が共同開発した高機能表面処理・ナノテクト®が、UAE・アブダビの国営石油企業 (ADNOC) の主要構成企業であるADNOC Gas Processing で採用され、同社プラント (締結部材用途) に向けて、この表面処理を施した金属部品の納入を開始しました。

今後、当社と株式会社竹中製作所は、2016年に共同で設立したUAE内の拠点 (注) を活用し、中東全域の石油・ガスプラント等に業界最高水準の防錆性能などを有するナノテクト®表面処理金属部品を拡販してまいります。

アジアや米州などの過酷環境にあるプラントへの供給も見据えており、これらの販売活動を通じて、「構造物の超長期間の保全」に向けた取り組みを進め、「持続可能な社会の実現」と「環境負荷の低減」に貢献してまいります。

(注) TAKENAKA MIDDLE EAST LLC:ボルト・ナット等の金属部品に高機能表面処理を施し、処理後の部品を中東で販売する、UAE内の加工・販売拠点。



フィールドテスト後のナノテクト®表面処理金属部品 (ボルト・ナット)

■ プラスチック再生事業に参入 －「環境保全」への取り組み－

当社は、プラスチック再生事業を展開している株式会社深遠商事に出資し、同事業に参入しました。

同社は、マレーシアの子会社 (プラスチック加工工場) を活用し、プラスチック・リサイクル材料を用いた、再生プラスチック樹脂原料・コンパウンドの製造・販売を行っています。



マレーシアのプラスチック加工工場

今回の出資を機に、当社は、日本国内外の高品位なリサイクル材料をこの加工工場に安定供給し、株式会社深遠商事と共同で顧客ニーズに応える付加価値の高い原料・コンパウンドを提供してまいります。

また、家電・事務機器業界などに向けて循環型リサイクルを提案し、プラスチックの再資源化を進めることにより、「環境保全」に貢献してまいります。



再生プラスチック樹脂コンパウンド

連結貸借対照表(要旨)^(注)

(単位:百万円)

科目	前期	当中間期	
	2019年3月31日現在	2019年9月30日現在	
資産の部	流動資産	51,577	48,037
	固定資産	10,041	10,492
	有形固定資産	4,466	4,450
	無形固定資産	520	477
	投資その他の資産	5,054	5,564
資産合計	61,618	58,530	
負債の部	流動負債	41,834	38,623
	固定負債	791	710
負債合計	42,626	39,334	
純資産の部	株主資本	18,862	19,199
	その他の包括利益累計額	129	△4
純資産合計	18,991	19,195	
負債純資産合計	61,618	58,530	

ポイント①
資産

売上債権の減少などにより、前期末比3,088百万円の減少。

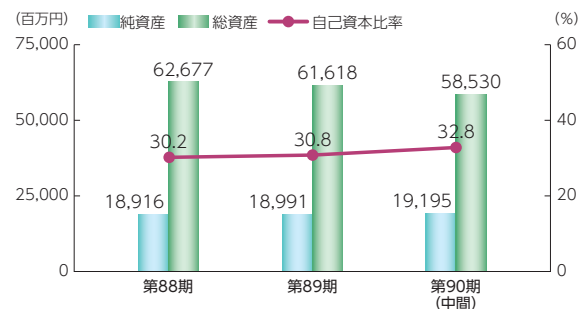
ポイント②
負債

仕入債務の減少などにより、前期末比3,292百万円の減少。

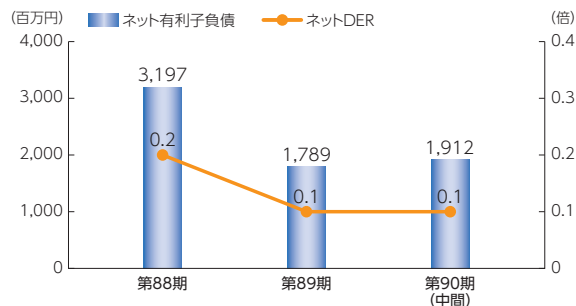
ポイント③
純資産

親会社株主に帰属する中間純利益による株主資本の増加などにより、前期末比203百万円の増加。

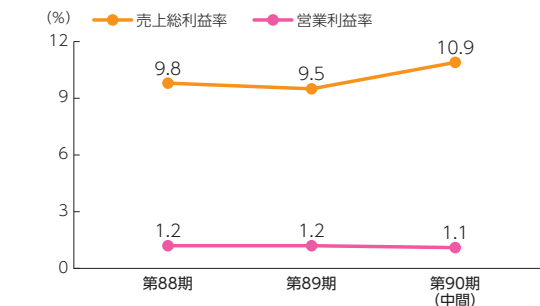
純資産(百万円)／総資産(百万円)／自己資本比率(%)(注)



ネット有利子負債(百万円)／ネットDER(倍)



売上総利益率(%)/営業利益率(%)



(注)「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を前期(第89期)から適用しており、第88期の数値につきましては、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	2018年4月1日～ 2018年9月30日	2019年4月1日～ 2019年9月30日
売上高	68,889	56,642
売上原価	62,242	50,444
売上総利益	6,647	6,197
販売費及び一般管理費	5,650	5,583
営業利益	997	614
営業外収益	156	141
営業外費用	109	174
経常利益	1,043	581
特別利益	0	30
特別損失	6	0
税金等調整前中間純利益	1,037	612
法人税等合計	301	33
親会社株主に帰属する中間純利益	736	578

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前中間期	当中間期
	2018年4月1日～ 2018年9月30日	2019年4月1日～ 2019年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,479	737
投資活動による キャッシュ・フロー	△119	△511
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,029	△55
現金及び現金同等物の 中間期末残高	11,915	12,517

ポイント④ 売上高

天候不順や低調な海外市場の影響を受け、海外売上高が減少したことから、前年同期比12,246百万円の減少。

ポイント⑤ 営業利益

売上高の減少により、前年同期比383百万円の減少。

ポイント⑥ 親会社株主に 帰属する中間純利益

税金費用が減少したものの、営業利益の減少などにより、前年同期比157百万円の減少。

当社ホームページ(IR情報ページ)のご案内

当社ホームページのIR情報のページでは、中期経営計画、決算短信や有価証券報告書等のIR情報をご覧いただけます。より詳細な情報につきましては、下記のアドレスにアクセスくださいますようお願いいたします。

<http://www.gsi.co.jp/ir>



TOPページ

IR情報ページ

株主様アンケートのご報告

本年6月実施の株主様アンケート（「第89期定時株主総会決議ご通知」に同封）の集計結果（抜粋）について、ご報告申し上げます。
ご回答いただきました株主の皆様、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

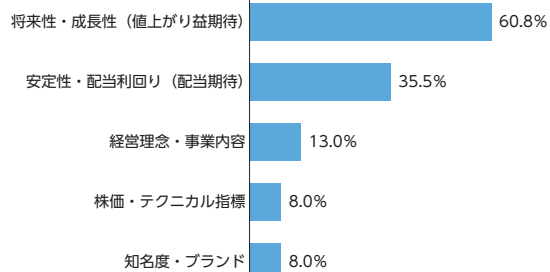
頂戴いたしました貴重なご意見・ご要望等につきましては、今後の活動の参考にさせていただきます。

【調査対象】 2019年3月末 株主名簿記載株主様 5,140名

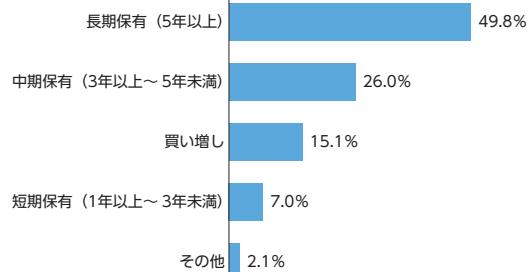
【調査方法】 アンケート郵送・無記名

【調査期間】 2019年6月26日～7月26日

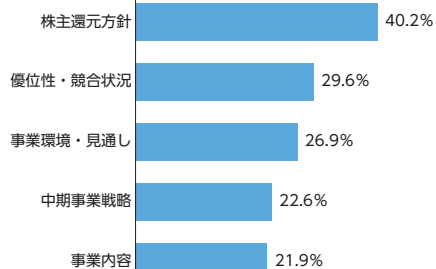
Q 当社株式購入の際に重視されたことをお聞かせください【複数回答可】。(上位5位)



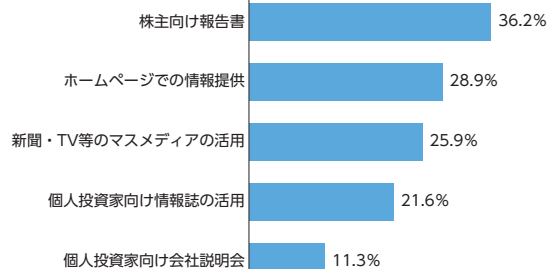
Q 当社株式の今後の保有方針についてお聞かせください。



Q 当社に関して、もっとお知りになりたい情報をお聞かせください【複数回答可】。(上位5位)



Q 今後の当社IR活動について、充実を希望することをお聞かせください【複数回答可】。(上位5位)



会社概要

■会社の概要 (2019年9月30日現在)

会社名	株式会社GSIクレオス		
本社	東京都千代田区九段南二丁目3番1号		
設立	1931年10月31日		
資本金	71億86百万円		
従業員数	568名(連結)		
拠点	国内 7ヶ所	海外	20ヶ所
連結子会社	国内 8社	海外	7社
ホームページ	http://www.gsi.co.jp		

■取締役・執行役員 (2019年9月30日現在)

取締役

代表取締役社長 社長執行役員	吉永直明	<監査等委員> 取締役	松下康彦
常務取締役 常務執行役員	中山正輝	社外取締役	後藤芳浩
常務取締役 常務執行役員	荒木靖司	社外取締役	早野貴文
取締役 執行役員	新美一夫	(注) 松下康彦は、常勤の監査等委員であります。	
取締役 執行役員	大西文博		
取締役 執行役員	西村裕樹		
社外取締役	服部和徳		

執行役員

窪田 満	森田雅彦	田村雄一
大賀浩司	鈴木恵太	

■株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	6,464,971株 (自己株式139,416株を含む。)
株主数	5,189名

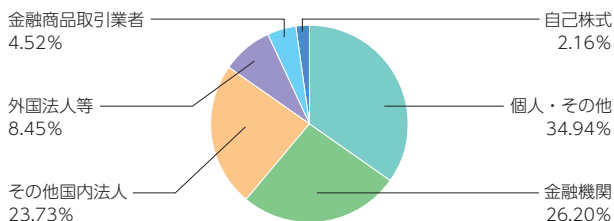
大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
グンゼ株式会社	932	14.74
株式会社三菱UFJ銀行	310	4.92
日本生命保険相互会社	232	3.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	205	3.24
東レ株式会社	198	3.13
株式会社みずほ銀行	189	3.00
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	181	2.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	177	2.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	99	1.57
株式会社SBI証券	92	1.47

(注) 1. 当社は、自己株式を139,416株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 持株比率につきましては、自己株式(139,416株)を控除して算出し、小数点以下第3位を四捨五入して表示しております。

株主構成(所有者別株式数の割合)



株主メモ

証券コード	8101
上場証券取引所	東京
単元株式数	100株
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告 当社のホームページに掲載いたします。 公告掲載アドレス http://www.gsi.co.jp/ir/notice (ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。)

